

## 第1学年6組国語科学習指導案

- 1 単元名 論理的に考える 「玄関扉」  
読み方を学ぼう④【三角ロジック】主張・事実・理由づけ

### 2 指導観

- 「玄関扉」は、日本と欧米を対立させて論じる枠組みや、玄関扉の相違からその背景にある文化へと論を展開する道筋、筆者の主張を導く事実とその理由付けなどの、論理的な文章の持つ基本的な性質を身近な事例から明快に学習できる教材である。また、「読み方を学ぼう④三角ロジック」では、「玄関扉」でも用いられた「主張・事実・理由づけ」の関係とその意味を整理して学び、論理的思考力を育成することはもちろん、「理由づけ」に着目することによって、批判的思考力や討論での主張の吟味にも活用できることをねらっている。
- 「論理的である」ということは、一連の思考を構成する諸要素が、整合性を持った道筋におかれ、「つじつま」が合った状態にある、ということといえる。「論理性を高める」ということは、思考を構成する諸要素の関連性を確かなものをしていくことである。論理性が高いほどコミュニケーションはスムーズになる。しかし、日常のコミュニケーションの中で、自分の主張の論理性を意識することは中学一年生の段階では少ないと考えられる。
- そこで、本単元の学習を通して論理的な思考力を鍛える体験をし、相手の主張の正しさを確かめたり、自分の主張をより説得力のあるものに高めたりすることは、今後のコミュニケーション能力を養う上で大変意義深いと考える。

- 本学級（39名）で事前アンケートを行った結果、説明的文章の学習について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒は24名、「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた生徒は15名、また、その主な理由は（好きの場合）新しい知識が得られるから、（嫌いの場合）分掌を読み取るのが難しいからである。さらに、「説明的文章の学習」が、日常生活で役立つ経験については、「ニュースなどのテレビでの話題や社会の授業、家族などの話題で知識が生かされた。」「題材に関する内容について興味深く観察してみた。」「文章を書くとき、話すとき、読み取るときに構成を意識することでわかりやすくなった。」などと答えている。

生徒は、1学期にすでに説明文の基本的構造を教材「クジラの飲み水」で学習している。また、2学期のはじめに、教材「食感のオノマトペ」で事実と筆者の意見を読み分ける学習をしている。そこで、本単元の学習において問題提起を探し、その解答を捉えることは既習の学習が生かされる。しかし、教材「玄関扉」では、問題提起に対する解答が事実ではなく、解釈のレベルで述べられており、事実と意見を読み分けた上で、自分の考えと照らし合わせて読む経験ができる。また、「主張」を支える「根拠」を、「事実」と「理由づけ」の二つの部分に分けて意識することは、生徒にとって初めての体験であり、論理的思考力を高める学習の機会となる。

- 本単元の指導においては、「文化の違い」を生活の中から見つけ、「三角ロジック」を使って、自分の考えを説明することができることをねらいとする。そのためにまず、第一次では「文化の違い」について考えを読み取った上で自分の考えをまとめる学習課題を意識することができるようにする。次に、第二次では学習課題を解決するのに必要な論理的思考について理解するために、教材文「玄関扉」の筆者の意見と根拠（事実と理由づけ）を読み取らせ、要旨を捉えさせる。また、筆者の論理的思考を「三角ロジック」を用いて確認する。その際、振り返りシートの記入を行い学習の振り返り（小さな振り返り活動）を行う。第三次では、第二次までに理解した「三角ロジック」を用いて、実際に自分たちで「文化の違い」についての考えを説明できるようにする。その際、小集団交流、全体交流の場を設定し、論理的思考力を高めさせたい。終末段階では、単元全体を通して、自己の学びの変容を認識できるように、振り返りシートを用いて学習全体を振り返る場を設定する。（大きな振り返り活動）

### 3 目標

- 「文化の違い」を生活の中から見つけ、自分の考えをまとめようとする。【関心・意欲・態度】
- 「三角ロジック」を使って、自分の考えを説明することができる。【話すこと・聞くこと】
- 文章の要旨を指定された字数でまとめることができる。【書くこと】
- 事実と筆者の意見と理由を読み分けて、要旨を捉えることができる。【読むこと】

4 単元計画 (7時間)

関心・意欲・態度【関】 話すこと・聞くこと【話】 書くこと【書】 読むこと【読】  
 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項【伝国】

次	時	学習活動・内容	指導のねらい・内容・方法	評価規準 (観点：方法)
一	1 ①	1 説明文の基本構造を確認し、事実と意見の違いを読み分ける課題を設定する。  (1) 単元を貫く課題を確認する。  筆者の論理的思考をまねて、「文化の違い」についての自分の考えをまとめよう。	「文化の違い」について、考えをまとめる課題を意識できるようにする。  ・課題を意識するために「文化の違い」から連想することを確認する場を設定する。 ・既習事項を学習に生かせるように、「クジラの飲み水」「食感のオノマトペ」の学習を想起させる。	・「文化の違い」について連想しているか。 【関】 (様相観察)
二	1 ④	2 文章に示された事実と筆者の意見と理由を読み分け、要旨をとらえる。 【小さな振り返り】 (1) 問題提起をとらえ、前半部分の筆者の意見を読み取る。 (2) 後半部分の筆者の意見を読み取る。 (3) 文章全体の筆者の意見をまとめ、同じような生活の中にある文化の違いを見つける。 (4) 課題解決のための方法を確認する。 ・「三角ロジック」について知る。 ・「玄関扉」の筆者の論理的思考を「三角ロジック」で確認する。	事実と意見と理由を読み分け、文章の要旨を捉えることができるようにする。  ・筆者の論の進め方を理解するために、「理由」「解釈」などのキーワードや「一方」「これに対して」「つまり」などの言葉に注目させて読み取らせる。 ・要旨をまとめるために必要なキーワードを提示し、字数を指定して書かせる。  ・自分の意見を組み立てやすいように、筆者の二つの解釈やロジックの転換を「三角ロジック」を用いて確認させる。	・問題提起に対する筆者の意見を日本と欧米を対比してして捉えているか。 【読】 (ノート)  ・提示された言葉を使って指定された字数で要旨をまとめているか。 【書】 (学習プリント)
三	1 ②  本時 2 / 2	3 単元を貫く課題解決を図る。 (1) 課題に対する材料を集め、「三角ロジック」の表に当てはめて「主張」「事実」「理由づけ」を考える。 (2) 「三角ロジック」を使って考えた意見が、論理的な意見になっているかを確認する。  「三角ロジック」を用いると、論理的に意見をまとめることができる  (4) 単元学習を通して、自己の学習状況の変容を記述する。 【大きな振り返り】	生活の中にある「文化の違い」について、自分の考えをまとめることができるようにする。  ・「文化の違い」を「衣・食・住・その他」の分類で考えさせ、班ごとによりよい意見を組み立てさせる。 ・論理的思考力を高めるために、同じ「文化の違い」に注目した意見を比較し、よりよい論理的考えを確認する活動を設定する。 ・単元全体の内容を確認するために、振り返りシートを用いて大きな振り返りを行う場を設定する。	・「三角ロジック」について、「文化の違い」に対する考えと結びつけて理解しようとしているか。 【関】 (様相観察)  ・「三角ロジック」の表に「主張」「事実」「理由づけ」を書き、自分の考えを説明することができる。 【話】 (様相観察・学習プリント・意見記入用紙)

5 本時 平成30年 11月9日(金) 第5校時 1年6組教室 (第3次の3時)

6 本時の主眼  
生活の中にある「文化の違い」について、「三角ロジック」を使って自分の考えをまとめ、説明することができる。

7 振り返り活動で仕組む授業づくりの工夫点

これまでの「小さな振り返り活動」で理解してきた筆者の論理的思考をもとに「三角ロジック」を使って、小集団による交流活動および全体交流を通して、単元を貫く課題に対する考えを説明することができる。終末段階では、単元学習を通して、自己の学習状況の変容を認識するための「大きな振り返り活動」を行う。

8 準備 学習プリント 「三角ロジック」説明用掲示物 意見の記入用紙 マジック マグネット

9 本時の過程  
関心・意欲・態度【関】 話すこと・聞くこと【話】 書くこと【書】 読むこと【読】  
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項【伝国】

段階	学習活動・学習内容	具体的な手だて(支援)	評価の観点(方法)	形態	配時
つかむ	1 前時の学習を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。 (1)筆者の意見の組み立てを「三角ロジック」を使って振り返る。 (2)本時のめあてを確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     &lt;本時のめあて&gt;                      「三角ロジック」を使って、「文化の違い」についての考えをまとめよう。                 </div>	○「三角ロジック」を理解しやすいように、筆者の意見を三種類の例で提示する。		一斉	5
さぐる・深める	2 「三角ロジック」を使って「文化の違い」についての考えを組み立てる。 (1)個人で考えた「主張」「事実」「理由づけ」について確認する。 (2)班で意見を出し合い、論理的に組み立て、よりよいものに作り上げる。	○難しい場合は、対比する二つを書かなくても一つだけでよいこととする。また、筆者の意見を参考にし、「適する」「適さない」の主張をまねると簡単になることを助言する。	・「三角ロジック」の表に「主張」「事実」「理由づけ」を書き、自分の考えを説明することができる。 【話】(様相観察・学習プリント意見記入用紙)	個↓小集団	20
まとめる・振り返る	3 全体で班の発表を聞き、「三角ロジック」を使ってより論理的な考えになっている主張はどれかを考え説明する。	○比較しやすいように、発表の仕方の例を提示する。  ○単元全体を通して、何がわかったのか、何ができるようになったのか自己の学習状況の変容を認識できるように、振り返りシートを用いて大きな振り返りを行う場を設定する。		一斉	15
	4 本時のまとめとして大きな振り返り活動を行う。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     「三角ロジック」を用いると、論理的に意見をまとめることができる。                 </div>		一斉	10	